

さ や け き

2016.MAR
No. 4

摂南大学広報誌

特集

- **就カツ** —摂南大学流就職活動— P. 3
 - 「就カツ」保護者セミナー
 - 就職内定者インタビュー
- **創立40周年記念事業** P.17
 - 創立40周年記念感謝の会
- **ニュース&トピックス** P.19



摂南大学は、2015年4月に創立40周年を迎えました。

SETSUNAN UNIVERSITY 

「4つの転換に対応しよう」



学長 八木 紀一郎
Yagi Kiichiro

昨年11月1日に学長に就任しました。不肖ながら本学の発展のために、力の限り尽くす所存です。ご支援とご鞭撻をお願いします。

さて前任の今井光規先生が私たちにくださった最大の資産はSmart and Humanという大学のタグラインであると思います。「理論に裏付けられた実践的技術を持ち、現場で活躍できる専門職業人の育成」という「建学の精神」が私たちの大学の出発点であるとするれば、このタグラインは私たちの大学の目標を示すものです。両者があいまって摂南大学の活動をガイドします。教育、研究、社会貢献という大学の3つの活動領域のすべてにわたって知性と人間性を結びつけ、人類社会の未来に貢献することが私たちの大学の責務です。

私の考えでは、人類はいま以下の4つの転換で特徴づけられる「新しい時代」に入り込んでいます。

その第1は、自然環境問題における転換です。地球温暖化問題についても、これまで国際的な合意に入ることを渋ってきた米国と中国も加わったパリ協定が昨年12月に成立しました。持続可能な社会への転換が必

至となっています。

第2は、科学技術における転換です。ヒトのDNAが解読され、万能細胞の実地応用が目前になっています。情報通信技術が発達し大量データの処理が可能になるとともに、人々の手元に高性能のスマートフォンが普及しました。科学技術の可能性を追い求めるだけでなく、人間性をもった活用が大事です。

第3は世界の構造変化です。中国、インド、インドネシアと人口大国が高成長を続け、ついにアフリカ諸国も爆発的な人口増加による成長を開始しました。日本経済にとつても、これら新興経済と結びつくことが課題です。

第4は、先進国とくに日本における人口減少社会への転換です。日本の人口は2007年をピークとして減少に転じました。少子化、単身世帯の増加や人口構成の急速な高齢化は、社会の全局面にわたるニーズの転換を生み出しています。

私たちの大学の課題は、学生の能動的な学修を実現するという教育自体の質的転換を図りながら、これら4つの世界的転換に知性と人間性をもつて対応できる人材を育てることです。

今春は、地域と社会への貢献を軸としたソーシャル・イノベーションの副専攻プログラムが全学で生まれます。また寝屋川キャンパスでは学生たちが協働して自学自習できるラーニングコモンズができます。これらを手始めに、来年度以降はキャンパスの拡大と結びつけて、学習環境をさらに整備するとともに、大学自体の組織的な発展を図りたいと考えています。何とぞご支援ください。

学長挨拶 2

特集

「就カツ」保護者セミナー 3
就職内定者インタビュー 4

摂南大学の特色ある取り組み

学生生活 6

大学祭 交流戦・交流会

ベンチャー／PBL

教職支援センター／図書館

環境保全 8

交流事業 8

国際交流・協定締結／地域交流

学部トピックス

法学部・外国語学部 11

経済学部 経営学部 12

理工学部 13

薬学部・看護学部 14

情報教育支援 研究支援 15

後援会 16

奨学金 学費減免ほか 16

特集

創立40周年記念事業 17

ニュース&トピックス 19



京人カツ

摂南大学流
就職活動

2016年卒業予定者の就職活動は、活動開始時期の後ろ倒しなどの変化を受け、当事者および関係者の混乱だけでなく、世間的にも大きな注目を集めました。このような状況の中、多様な進路選択を応援する本学の就職支援体制とともに、内定を獲得した学生の皆さんの声を紹介します。

2015年11月3日、グランフロント大阪 ナレッジシアターにて

「就カツ」保護者セミナーを開催

就職活動時における学生と親のより良い関わり方を理解し、実践することを目的に毎年開催している「就カツ」保護者セミナー。今年は247人の保護者の方々が参加。八木学長と松本後援会長のあいさつに続いて第1部では「家庭でできる就職支援」と題した講演を行い、第2部は4年次生によるパネルディスカッションを実施しました。



第1部

「家庭でできる就職支援」

第1部は佐野氏から昨今の就職活動状況やスケジュール変更の影響、企業の求める人材、家庭でできる就職支援についてお話しいただきました。この中から2つのテーマを紹介します。

講師：佐野智世氏
戦略マーケティング研究所 ケイ・ファクトリー取締役



(株)西武百貨店でマーケティング・企画広報を務めた後、現職にて企業・行政施設の事業計画立案～実施、新入社員・リーダーシップ・コミュニケーション・メンタルヘルス等の研修を担当、年間200を超える講座実績を誇る。

➡ 就職活動スケジュール変更の影響

2015年度から就職活動の広報開始時期が3月に、実質的な選考開始が8月からとなり、学生にとっては活動の長期化、企業にとっては規模に関わらず内定辞退の増加といった影響が見られました。10月以降も採用計画数に達していない大手企業が継続して活動を行う例もあり、論めずに就職活動を続けることの重要性が

高まっていました。また経団連の方針と異なる独自のスケジュールで行う、あえてナビサイトを経由せず自社ホームページでのみ受け付ける等、独自の採用活動を進める企業が増加していたため、混乱したのではと思われます。それだけに、2016年度の就職活動では日々の情報に敏感に対応していくことが重要になります。

➡ 家庭でできる就職支援

家族だからこそできる就職支援として、ご家族の経験を伝える、ストレスに強くなる食生活をサポートする、お子さまの悩みや相談に対して辛抱強く聞き役になるなどが挙げられます。特に就職活動時は、企業側から魅力的な都合の良い話をたくさん聞くことができますが、その逆はあまり聞くことができず、学生自

身もそうした等身大の話を求めているものです。一番身近な社会人の先輩であるご両親からあえて成功談ではなく失敗談の話を伝えていただき、何が大変であったかとか、どう乗り越えたか等のお話をしてあげることで、学生の皆さんの就職活動もより前向きになっていくと思われます。

第2部

「私はこうして内定を得た」

第2部は「就職活動の進め方」「就職活動で不安だったこと」「就職活動中の家族の支援」と3つのテーマでパネルディスカッションを行いました。その中で特に反響のあった家族の支援について紹介します。

パネラー紹介(敬称略)

■コーディネーター

教務部キャリア教育推進室講師 水野 武

■パネラー

法学部法律学科 佐藤 直也

外国語学部外国語学科 堀内 奈津美

経営学部経営学科 釘宮 千佳

理工学部機械工学科 渡瀬 侑人

理工学部住環境デザイン学科 岸脇 昇平

理工学部生命科学学科 太田 拳斗



➡ 家族の支援やNGワード

家族からの支援では、自己PRの内容の考察と一緒にに行った、第1志望と同じ系列の会社に働いている親戚から選考情報を教えてもらうように働きかけてくれた等、直接的なものもあれば、アイロンがけ、靴磨き、金銭面でのフォロー等、陰ながら支えるという間接的なものまで幅広い支援方法が分かりました。直接的であれ間接的であれ、ご両親の優しい姿勢に助けられたという学生が多い反面、NGワードとして「就職活動進んでいるの?」など心配はしてほしいがプレッシャーはかけてはくれないという意見に参加学生の多くがうなずいていました。保護者の方からは「家庭での支援の良いヒントになった」という反応を多数いただきました。

➡ 「継続は力」勉強した自信で公務員試験突破



国税専門官(大阪国税局)に内定
法学部法律学科4年
磯田健太さん

隔々まで
やり遂げた
試験対策本



▶勉強とバイトの4年間

公務員を目指して法学部に入りました。最初は警察官志望でした。大学入学後の就職ガイダンスや受講した公務員講座で公務員になった先輩の話を聞いて、それ以外の公務員にも関心が生まれました。大学の4年間は授業に加え、公務員試験の勉強と飲食店のバイトに明け暮れました。小学校から高校まで8年間野球ばかりやっていて、こんなに勉強したのは初めてでした。3年次の5月から3月までは大学内で公務員講座を週3日受講しました。授業は1日3時間で、家に帰って5時間勉強し、授業のない土日は8時間しました。法律や経済の専門科目と教養科目がありますが、10科目以上と科目も多く、結果が出るまでの期間も長いのが公務員試験です。周囲の友達が企業の内定をもらう中で、モチベーションを保つのも大変でした。

▶納税者から信頼される人間に

市役所を4つ、大阪府警、国税専門官を受けました。最終的に大阪府警と国税専門官に内定しました。市役所は最終面接で不採用となるのが多く、1つが補欠合格でした。法律や経済は勉強すればするほど模擬試験の点数は上がったのですが、数的処理が苦手で苦労しました。ひたすら過去問をやり続けました。面接も慣れなかったのですが、公務員講座の先生方のアドバイスが役に立ちました。公務員講座の受講生は途中で諦める学生が多く、最終的に半分以上に減っていました。「やり続ければ結果は必ず出る」という公務員になった先輩の言葉通り、勉強もバイトも野球も継続が力だと改めて感じています。国税局では国の重要な財源である税の確保という仕事に就きます。納税者から信頼される人間に早くなることが目標です。

➡ バリバリのキャリアウーマンになりたい

▶ボイスレコーダーで自己分析

高校生の時に「もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら」という本を読んでビジネスに興味を持ち、経営学科に入りました。三木僚佑准教授の研究室では会計について勉強し、証券業界に進みたいと思うようになりました。就活では証券業界と人材ビジネス業界に絞り、約30社にエントリーシートを出しましたが、あくまで本命はSMBC日興証券でした。そこから内定をもらったのは、面接の準備に力を入れたのが大きかったと思います。就職部の方に二人三脚のようにいろいろアドバイスをいただいたほか、自分なりの工夫や研究もしました。例えばボイスレコーダーに自分の話を録音し、詰まる箇所のチェックをしたり、話し方に抑揚が足りないことに気づき直しました。その効果はすぐに出ました。

▶「お祈りメール」にも気持ちを切り替えて

だんだん1次面接を突破できるようになったのです。話す中身も大事ですが、話し方や立ち居振る舞いでまず面接官に良い印象を持ってもらうことは大事です。就活では不採用を知らせる「お祈りメール」に落ち込むこともありましたが、「縁がなかった」と気持ちの切り替えができました。就活が多くの社会人の方と接点を持つ貴重な経験だと前向きに捉えればいいのです。大学名より学生の中身を見てくれる企業が多かったのも心強かったです。SMBC日興証券では入社後1年は外回り営業で顧客開拓をします。将来はバリバリのキャリアウーマンが夢です。まずは誰よりも早く自分のお客様をつくることです。女性社員の活躍を推進するが働きやすい会社でもあるので、仕事と家庭を両立できる女性になりたいです。



SMBC日興証券に内定
経営学部経営学科4年
釘宮千佳さん

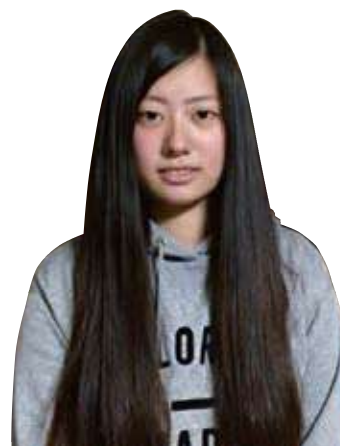


1人暮らしで自炊のため、料理は教室に通って一から勉強しました

➔ 患者さんから何でも話しかけられる看護師が目標

▶自分を知った友達との面接練習

就職活動もそうでしたが、大学生活全般は友達存在に支えられました。内定をいただいた星ヶ丘医療センターには1年次の実習で初めて行った時から良い印象を持っていました。その後、3年次から始まった領域別の実習で何度も行かせてもらう機会があり、病院、病棟の雰囲気良さや看護師の方の丁寧で分かりやすい指導が決め手となって「ここで働きたい」と気持ちが固まりました。でも就職の学内選考の時期に、私は卒業研究の内容にとっても悩んでいたのが就職部がサポートする面接練習に参加できていませんでした。それを助けてくれたのが大学の友達です。情報を共有し、面接の練習もし合いました。自分では気づかない長所を教えてもらうことも。アドバイスが自信につながり、選考時は3人の面接官の方とスムーズなやり取りができました。



(独) 地域医療機能推進機構
星ヶ丘医療センターに内定

看護学部看護学科4年
河本瑞樹さん

▶学んだ専門知識とサービスを土台に

母が看護師で小学生の頃から同じ道を考えていました。卒論は「難病患者家族の介護負担感」をテーマにして実際にインタビューを行いました。患者さんとご家族を紹介してもらうには想像以上の手続きがあり時間もかかりました。遅れから焦りもあったのですが、接する時は落ち着いて、日常会話からスタートすることを心掛けました。話しかけやすさを抱いてもらうことは私が何より目指すもの。時間の経過とともに介護の負担だけでなく秘訣も教わるようになりました。学んだ知識とサービスを土台に、思考力、判断力のある看護師になりたいと思います。最後に、学生の皆さんには病院独自の見学会やインターンシップに行っておくことをお勧めします。情報は病院のホームページや合同説明会で集められます。自分の仕事における条件を明確にする意味でも重要です。



大学の仲良し
メンバーとは
毎年旅行に
行ってます

➔ 実力をつけて信頼されるMRに

▶畑違いの製薬業界に挑戦

理科の中でも生物が好きで生命科学科に入りました。松尾康光教授の研究室では生体材料を用いた燃料電池の研究で卒研に取り組みました。その分野とは畑違いの製薬業界のMR(医薬情報担当者)を目指したのは、インターンシップで知り合ったMRの方の影響です。薬学部卒でなくても活躍できることを教えられ、製薬会社約60社にエントリーシートを出しました。学科から製薬業界に行ったOBもなく、もともと他人のアドバイスもあまり聞かなかったせいか、最初はエントリーシートや一次面接の段階で不採用が続きました。周りの友達に内定が次々に出る中、かなり焦りました。一時は親からも「顔が死んでる」と心配されたほどです。そんな嫌な流れを変えたのは、一人で挑戦した海外マラソンの話でした。



MeijiSeikaファルマに内定

理工学部生命科学科4年
西村祐希さん

▶海外マラソン体験のアピールで流れ変える

3年次の時に挑戦した地中海のマルタ島のマラソン大会で、日本人はほとんど出ません。ネットで調べて参加申し込みをしました。自己最高の4時間台で走ることができ、大きな達成感を得ることができました。その話をすると面接官の反応が違ったのです。自分には薬学の知識もなく、アピールできるのはこれしかない気づきました。気合いと体力があることが面接官に伝わると内定が出始めたのです。最終的に4社から内定をもらえました。苦勞した就活でしたが、自分なりにアピールポイントを工夫したのが奏功したようです。MeijiSeikaファルマには全国に900人のMRがいますが、会社の得意分野は精神科の薬品で、それを扱えるMRは実力の認められた250人ほどです。勉強を続けて信頼され、いずれはそこに入れるように頑張ります。

就活のすべてが
詰まった手帳。
思い出も
ぎっしり



摂南大学の特色ある取り組み

Student Life

学生生活

大学祭・交流戦・交流会

寝屋川キャンパス

第41回摂大祭

「繋Goodby!!」

10/10(土)〜12(月・祝)

枚方キャンパス

第4回摂友祭

「For One Purpose」

〜1つの目的に向かって〜

10/12(月・祝)

学生と教職員の一大イベント、第41回摂大祭を昨年10月10日〜12日（寝屋川キャンパス）、第4回摂友祭を10月12日（枚方キャンパス）にそれぞれ開催しました。学生、卒業生、教職員、保護者、地域の方々など多数の来場者が集う活気に満ちた祭典となりました。摂大祭には3日間、約8000人、摂友祭には約2350人が来場しました。



摂大祭は恒例の「M.s.&M.r. UNIVERSITY of SETSUNAN COLLECTION(セツレ)」をはじめ、各課外活動団体が演奏や発表など日頃の活動成果を披露。P.B.L.中間報告会など多彩なイベントとともに工夫を凝らした模擬店が出そろい会場は熱気に包まれました。

摂友祭は連携病院など医療関係機関と協力し、医療色の濃いものとなりました。枚方公済病院による「心肺蘇生法講習会」や枚方市保健所協力のもと実施した「H.I.V.予防啓発活動」が例年以上に盛況だったほか、大阪府赤十字血液センターによる「学内献血」も前年度を



体育会交流戦

超える協力がありました。新たに実施した「健康体操」や恒例の「健康フォーラム」にも多数の来場者がありました。

「常翔学園3大学」課外活動団体交流戦・交流会を開催！

学園が設置する3大学（摂南大学・大阪工業大学・広島国際大学）の課外活動団体による体育会交流戦・文化会交流会を実施しました。体育会は昨年6月6日・7日、本学寝屋川・枚方キャンパス、大阪工業大学大宮・枚方キャンパスで実施し、各試合会場で熱戦を繰り広げました。



文化会交流会

文化会は昨年11月21日・22日に広島国際大学東広島キャンパス講堂で音楽演奏やパフォーマンスを行い、大いに盛り上がりました。会場ロビーでは、芸術系クラブが作品を展示し、日頃の活動成果を披露しました。

本学からは体育会・文化会計22団体、566人（3大学合計66団体、1001人）が参加し、多くの学生が交流する有意義な機会となりました。

ベンチャー

学生グループ考案

「カレーに乗せてはいけない福神漬け」を

寝屋川市のイベントで販売

経営学部が学生グループが考案し、寝屋川市のベンチャービジネスコンテストで初代グランプリに輝いた



寝屋川市農業まつりでは300バックを完売

「カレーに乗せてはいけない福神漬け」を昨年11月15日、同市「農業まつり」で販売しました。

「地元の農産物を使い、市の特産品として販売したい」とグループリーダーの太田順也さん（経営情報学科4年）らは、これまでに試作品づくりや試食会の開催、食品会社との販路検討、商品パッケージデザインの制作など、商品化に向けてさまざまな活動を行ってきました。この日の販売は大学ホームページで告知したほか、新聞等で取り上げられたこともあり、用意した300バックは昼過ぎに完売する盛況ぶり。今後への大きな弾みとなりました。



パッケージデザインも学生が制作



協働した学外関係者も多数参加し、活発な質疑応答が行われた

PBLプロジェクト 最終報告会を開催

1月23日、PBLプロジェクト最終報告会を開催し、学生、教職員、学外関係者など約300人が参加しました。PBLはProblem based learning(課題解決型学習)やProject based learning(プロジェクト型学習)と呼ばれ、学生が企業、団体、地域と協働し、課題解決に向けてチームで取り組む教育手法です。今年度は12のプロジェクトで172人の学生が活動しました。

報告会では各プロジェクトの代表者が、課題や活動内容、活動中どのような問題が起こり、どう解決したか、そこから得られた気づき・成長、今後の展望について発表し、聴講者はルーブリック(評価基準表)を用いて内容を評価します。また、外部関係者からはPBL受講前後の学生の変化について結果報告があり、PBLの学習効果を認めることができました。全体講評では教務部長の萩田喜代一教授が「どのプロジェクトも学生の成長が見える素晴らしいものだった。大学でのさまざまな学びを通じて自己効力感(自信)を高め、自分を磨き続けてほしい」と激励しました。

表彰プロジェクト

【Good learning賞】

タグラグビーを通してスポーツの楽しさを伝えた「子どもたちのスポーツ活動の活性化を目指した地域貢献プロジェクト」

【Good Activity賞】

交野市の特産品やプロモーションビデオの作成等に取り組んだ「交野市の活性化プロジェクト」



「全国大学ビブリオバトル2015～首都決戦～」に 本学チャンプの福田さんが出場!!

図書館では、全国的な普及を遂げる知的書評合戦「ビブリオバトル」を普及させるため、積極的に取り組んでいます。

本年度に本学で実施した全国大学ビブリオバトル予選会の結果、第1回予選会チャンプは大久保瑞紀さん(経営情報学科3年)、第2回予選会チャンプは福田光さん(生命科学科4年)が選出され、昨年11月28日に開催された関西Aブロック地区予戦に出場しました。地区予戦では、5大学6人の出場者の中、レベルの高いバトルを繰り広げ、福田さんが見事地区予戦チャンプを獲得し、「全国大学ビブリオバトル2015～首都決戦～」への出場を果たしました。全国の地区予戦会を勝ち抜いた30人のバトラー(発表者)が昨年12月23日、東京での首都決戦バトルに出場し、福田さんは惜しくも準決勝で敗れたものの大健闘し、摂南大学の名を全国に広めてくれました。



教職支援センター(Study Room)

教職課程で学んだ多くの卒業生が 学校教育の現場で活躍しています

本学では、「建学の精神」と「教育の理念」に基づく教職課程を設けており、これまでも多くの卒業生が学校教育の現場に入って活躍しています。

2014年11月に設立した「教職支援センター(Study Room)」では、豊かで平和な社会を次世代に継承するうえで欠かせない教育現場で働くという志ある学生たちの学びを支援しています。本学の過去4年間(2011～2014年度)の教員免許状取得者は150人(学部)に上ります。学生たちは目標に向かって、互いに切磋琢磨する日々を送っています。

【Study Roomをご利用ください】

寝屋川キャンパス7号館3階
月～金曜日/9:00～18:30 土曜日/9:00～17:00

- 教職課程履修者であれば自由に利用できます。
- 教員採用試験対策に関する書籍や中学校・高等学校で使用されている教科書も豊富にそろっています。
- 黒板・教卓・机・椅子を配置して模擬授業が行えるようにしています。



<http://www.setsunan-kyousyoku.jp/>



教員採用試験対策にStudy Roomを利用する学生たち
昨年度は5人、今年度は6人が現役で採用試験に合格

環境保全

ごみの分別徹底にご協力を!!



ります。ごみと資源を分別することで、資源は再利用され、その結果としてごみの量は減ります。

今回、ごみの分別を徹底するため、ごみの種類をイラスト化するとともに色分けされたフィルムでごみ箱にラッピングを施しました。

これにより、ごみの種類が色で判別でき、分別もスムーズに行えるようになりました。

また、遠方からでもごみ箱の存在が認識できるため、ごみのポイ捨て防止による学内美化にもつながります。

学生に対してもごみの分別を習慣づけることにより、環境問題に対して意識を高める教育的効果もあると考えています。

**キャンパススクリーン
サポーターが摂大祭で
清掃活動を行いました!**

従前からキャンパス内に設置しているごみ箱は、「燃えるごみ」および「ビン・カン・ペットボトル」の2種分別となっていました。大学から発生するごみの再資源化を促進するため、「燃えるごみ」「ビン・カン」「ペットボトル」の3種分別としました。

摂大祭最終日の昨年10月12日に、キャンパススクリーンサポーター（略称・CCS）が学内の清掃活動を行いました。今回はCCSの学生のほか、エコビル部やピアサポーターの学生有志も集まり、総勢15人の学生が、学園祭で賑わうキャンパスを1時間ほどかけて清掃しました。



強風の中、学生たちは火ばさみとごみ袋を持ち模擬店で提供された容器などを拾いました。

CCSが活動している姿を見て、二人でも多くの人がポイ捨てをせず、ごみを減らすきっかけになるようこれからも活動していきます。

昼休みや放課後には清掃・消灯作業を行っています。今後も「できるときに、できるところから」実践し、身近な環境問題に取り組んでいきます。

交流事業

国際交流・協定締結

「インドネシア」

本学教員が国際シンポで
基調講演＆
現地中学生が来学

昨年8月20日、ストモ博士大学文学部とインドネシア教育文化省東ジャワ州国語研究所の共催による国際シンポジウムに、外国語学部の浦野崇央教授と橋本正俊准教授が招かれ、それぞれ「インドネシア・日本の大学間協定の現状」、「日本古典文学に描かれる信仰をどのように教えるか」をテーマに、外国人がインドネシア語を学習する意義と日本人の価値観や世界観を理解するために欠かせない古典文学教育の重要性について講演しました。当日はインドネシア全土から200人を超える参加者があり、講演や質疑応答の様子がマスコミ各紙で報道されました。

同年9月29日、国際教育交換協議会（CIEE）が行う日本でのボランティア活動や文化体験プロジェクトの一環として、インドネシア中部ジャワ州の州都スマランにあるアル・



中部ジャワの踊りを披露するインドネシアの中学生



国際シンポジウムで講演した浦野教授（左から6番目）と橋本准教授（同7番目）

アズハル中学校の中学生12人が本学を訪れました。中部ジャワの伝統的な踊りや秀麗会大阪支部の方による日本舞踊の披露に続いて、浴

衣を着て日本舞踊の体験をした後、インドネシア・マレー語専攻の学生と一緒に大阪散策を楽しみました。



スタディツアーとして来学したイタリアIULM大学の学生らも合流

大葉大学(台湾)と交流協定

台湾の大葉大学(Dayeh University)と本学は昨年10月15日、学術交流に関する覚書ならびに学生交換協定書を締結しました。

同大学は彰化県(台中の隣)に位置する1990年創立の私立総合大学で、学生数約1万2千人。工、管理、外国語、設計および芸術、生物科技術および資源、観光ホスピタリ

ティ、看護および健康の7学部があり、中でも外国語学部応用日本語学科には約500人の学生が在籍しています。

同大学の武学長は昨年、最も優れた学長として表彰され、そのリーダーシップは台湾国内でも注目を集めています。大学創設者が日本の高島屋と提携で台湾高島屋デパートを経営している、日本ともゆかりがあります。

本協定によつて、毎年2人まで半年または1年間の交換留学(授業料免除)が可能になります。学部構成など多くの共通点が見られることから、短期プログラムの連携も含め、継続的な相互交流が期待されます。



大葉大学キャンパス

海外プログラムが充実 ―派遣・受け入れとも多様に―

国際交流センターでは、多くの学生に参加の機会を設けるため、春と夏に海外研修を実施しています。春(3月)に、薬・看護学部の学生を対象としたフィリピンでの語学研修(英語)、全学部生を対象としたタイ・泰日工業大学でのスプリングプログラムを予定。西日本の大学18校が加盟しているUNGLE(University Network for Global Leadership Development in West)が主催し、総勢60人以上の学生が集まる「リーダーシップチャレンジ in サイパン」に、4人の学生が参加予定です。



授業を受ける中国・常州大学の学生とサポートする本学の学生たち

す。短期派遣に加え、4月から韓国・大田大学校へ約1年間の長期交換留学を予定している学生もいます。また、夏には6ヶ国(メキシコ・台湾・インドネシア・カナダ・韓国・タイ)でのプログラムを予定しており、3月から説明会・募集を開始します。

受け入れは、長期に加えて、昨年夏から短期間も開始しました。昨年7月に中国から大学生1人、1月にはベトナムから高校生16人、さらに中国から大学生15人を受け入れました。ベトナムの高校生には初歩の日本語の授業、日本文化の紹介、校外研修、常翔啓光学園高校での交流を実施しました。1月の中国大学生の受け入れは、理工学部の授業が主となるプログラムでした。理工学部生が学科ごとの紹介を英語で行った後、実験や施設見学をしました。サポートには本学の国内学生と留学生が付きまします。

このように、海外に出て行くだけでなく、国内にいながらも外国人・異文化に触れる機会を提供しています。



プログラムを終えて修了式後に記念撮影

ます。また、他大学と合同で派遣したり、海外からの研修生を本学と常翔啓光学園高校が合同で受け入れたり、国際交流センターだけでなく理工学部の授業を提供するなど、大学内や常翔学園グループ内の連携を通して、受け入れにも多様性を持たせています。このような機会を2016年度は増やしていく予定です。

地域交流

経済学部生に
和歌山県由良町長から
感謝状が贈呈

本学と和歌山県由良町は、和歌山県「大学ふるさと」協定を締結しており、地域活性化に向けたさまざまな活動を展開しています。

昨年8月には経済学部の学生20人が、インバウンド観光による地域活性化の可能性を研究するため由良町を訪ねました。全地区の町民の方々にヒアリングを行うなど、同町の観光についてフィールドワークを通して理解を深めた学生たちは、急増する外国人観光客を一部の有名観光地だけでなく、由良町のような地方にも呼び込むための方策を検討しました。

昨年9月、日本観光協会が主催



学生企画「インバウンド観光モニターツアー」で地引網体験をする本学留学生たち

インド観光モニターツアーを実際に企画し、昨年11月には由良町で実践。インドネシア、中国、韓国、トンガ、フィジーからの留学生17人が参加し、地引網体験や語り部とともに興国寺を参拝するなど、有名観光地とは違った日本を体験しました。

これらの取り組みに対し、昨年12月4日、畑中雅央由良町長から感謝状が贈呈されました。

学生たちはキャンパスを飛び出し、地域から学び、地域に育てられています。地域社会の課題を発見し、主体的な課題解決への取り組みを通して、現代社会に強く求められる人材へと成長しています。

社会人対象
「マーケティング論
学び直しセミナー」を開催

経営学部は「マーケティング論学び直しセミナー」を寝屋川市駅前の本学地域連携センター駅前活動ルームにおいて、全7回（1月7日、2月25日）実施しました。

中小企業経営者やマーケティング部門・企画部門に勤務する方、大学院進学を検討する方などを対象に募集を行い、15人（定員制）の社会人の方から応募がありました。

毎週木曜日の18時30分から21時30分までの講義で、大阪府立産業開発研究所（現大阪産業経済リ



社会人向けにマーケティング論のセミナーを行う鶴坂教授

サーチセンター）にて長年、中小企業の支援に携わった経営情報学科の鶴坂貴恵教授が講師を務めました。

3時間という長時間のセミナーにもかかわらず、受講者の皆さんは、毎回生き生きとした表情で講義に聞き入っていました。

大学院看護学研究科
開設記念公開講座を開催

本学地域医療研究センターは昨年12月13日、大学院看護学研究科の今春開設を記念し、枚方キャンパスで公開講座「看護の実践力と教育力の向上」を開催しました。

看護学部長の後閑容子教授は「療養支援看護学領域」と「健康発達支援看護学領域」の2本の教育研究の柱を紹介。会場に集まった現職の看護職者などに対し、これま

での経験を生かして幅広い知識を吸収し、専門職としての可能性を広げてほしいとあいさつしました。

公開講座では、本研究科に就任予定の看護学部の鎌田佳奈美教授と田中結華教授が講演。より広い児童虐待の概念であるマルトリートメントに対する看護職の役割と支援や、療養生活を送る患者と看護職者の会話分析などの研究成果について解説し、研究的アプローチで看護実践を捉え直すことの重要性と、その知見を社会に発信できる専門職者を育成する本研究科の目的を述べました。

公開講座終了後の入学個別相談会では、大学院の授業内容や提出書類について熱心に質問する参加者の姿がありました。



鎌田教授



相談ブースを訪れる看護職者らに答える田中教授（右）

法学部

Faculty of Law

■模擬裁判を行いました

家本真実准教授のゼミでは昨年12月12日、キャンパス内の模擬法廷で裁判員制度を取り入れた模擬裁判を行いました。

今回は「殺人未遂事件」を扱いました。カラオケスナックで被告人が被害者を果物ナイフで数カ所刺し、大けがを負わせたというものです。学生たちは検察官や弁護士、証人、書記官、裁判員などの役に扮し、裁判官役は実際の弁護士の方をお願いしました。当日が初顔合わせです。学生は自分の考えを主張するための資料は事前に準備していますが、

「自分の意見を持ち議論する力」が榊原さん



模擬裁判の様子

裁判員役の学生は事件についての予備知識はありません。緊張感と臨場感が増す中、審理は「冒頭手続き」→「証拠調べ手続き」→「評議」→「判決」へと流れます。8人の裁判員が被告人の刑について話し合う「評議」には1時間をかけました。

検察官役の榊原康介さん(4年)は「状況証拠から被告人の殺意の認定をし、懲役13年を求刑しました。弁護士は無罪を主張しましたが、裁判官の判決は懲役10年でした。検察側の主張が認められたと言えるでしょう」とコメントを寄せてくれました。

裁判員制度は国民の視点、感覚を裁判に反映するため2009年にスタートしました。同ゼミでは制度導入が決まって以降、毎年模擬裁判に裁判員制度を取り入れて学生の理解を深めています。

裁判員制度は国民の視点、感覚を裁判に反映するため2009年にスタートしました。同ゼミでは制度導入が決まって以降、毎年模擬裁判に裁判員制度を取り入れて学生の理解を深めています。

■企画運営委員会活動報告

—法学部の学びと遊びを作り出そう—

大学生活を共に楽しみ、盛り上げたいそんな思いで発足した「法

学部企画運営委員会」には現在1〜3年次の学生19人が

所属しています。アイデアを出し合いながら企画や広報活動も行い、実施後にはしっかりと反省会。いくつかの取り組みを紹介します。

「新入生サポートウィーク」法学部キャリアルームを開放し、新入生の履修に関する質問に対応。期間中のべ100人以上の訪問がありました。このほか「学内案内ツアー」も実施。(4月)

「クリスマスコンテスト」学生からクリスマスにまつわるエピソードを募集。「愛情」「友情」「家族思い」の3賞を表彰。(12月)

「大阪府警見学会」「大阪府警察庁見学会」施設見学のほか現職の府警職員、検事の方との質疑応答を含むプログラム。将来の職業選択の幅と視野を広げることができました。(2月3月)

今年度のラストを飾るイベントは…

3月24日開催の卒業パーティー!!



Faculty of Foreign Studies

外国語学部

■学生が中学生に英語授業を実施

昨年8月31日、「2015年度中高大連携プログラム」の「環」として、常翔学園中学校2年生を対象に教員と学生ティーチングアシスタントが授業をしました。テーマは「英語の発音を学ぶ」。寝屋川キャンパスを訪れた生徒たちはマイケル・ハークー講師と大原岡浩講師から音節・音素(レベル)と文節レベルの英語発音のポイントを学び、英語のパワーと魅力を体験しました。

■PBLで国際交流を実現

昨年12月12日には、外国語学部生が中心のPBL「寝屋川市と米国ニューポートニューズ市の姉妹都市交流支援プロジェクト」が主催する



PBL学生プロジェクトによる公開講演会&国際交流パーティー

学生参加の各種イベントを開催しました

- サザンクロス大学 コフスハーバー校への海外実習 (8月13日〜9月1日、参加学部生12人)
- インドネシア・マレー語専攻学生の留学報告会 (10月27日)
- 外国語学部の「合同就職体験報告会」 (11月10日)
- スペイン語専攻生の2015年度レシテーション、スピーチ・コンテスト(決勝大会) (12月8日)
- 中国語専攻生3年生スピーチコンテスト (12月17日)
- 文化観光実習演習報告会 (12月22日)
- 2015年度外国語学部コンテスト表彰式 (12月22日)



スペイン語2年 上野 美幸さん

経済学部

Faculty of Economics

経済学部

経営学部

本年度の各ゼミにおける研究活動の成果を発表する機会として、次のとおりイベントを開催しました。

■卒業研究論文発表会

入賞チーム



1月21日、4年次生による『卒業研究論文発表会』を開催しました。各ゼミの担当教員から推薦された12チーム(計22人)が参加し、2つの会場に分かれて発表を行いました。学生らは大学4年間の集大成として作成した卒業論文をそれぞれ発表し、その内容は本学部教員・審査委員により評価され、各会場の中から最優秀賞・優秀賞・特別賞の3賞が選出され表彰を受けました。

■最優秀賞 山本将大、梅原淳太
■優秀賞 田中幸紀、屋宮崇志

■特別賞 野田将太・福本琢也・武田唯・兼久卓也・村上友梨・中尾知樹・中島俊也
(敬称略)

■ゼミ対抗

プレゼンテーション大会

学部の恒例行事となった『ゼミ対抗プレゼンテーション大会』を1月23日に開催しました。参加者は、1、3年次生を対象とし、各ゼミ活動において1年間学習した研究活動の成果を発表しました。

今年は28チームが参加し、3つの会場に分かれてリレー形式で発表しました。テーマは、地方創生の実際から観光産業の行方、さらには日本企業の海外進出に関するものまで多岐にわたっていました。学生たちは、日頃の学習成果を人前で発表するという、いつもと違った緊張感を味わいながら、今後の専門学習への意欲をさらに高めることができました。

また、終了後には、懇親会が開催され、互いの発表を称え合うなど親睦を深めました。



発表の様子

■最優秀賞
郭ゼミ「球場での観戦意欲を向上させる要因について」
後藤ゼミ「KANAZAWA」
「地方の金沢から世界の金沢へ」
田井ゼミ「空き家問題と地域活性化策の考察」枚方市・尾道市・蒲生四丁目の検証から」

TOPICS

「第11回日銀グランプリ」で佳作に入賞

経済学部の学生チームが「第11回日銀グランプリ」キャンペーンからの提言(日本銀行主催の書類審査で佳作に入賞しました。受賞者は、経済学部植杉ゼミ3年の天野高太さん、川口雄大さん、西川恵里香さん、宮嶋嵐気さんの4人。全国37大学計109組の応募の中で、佳作は決勝進出した5チームに次ぐ8チームでした。

論文は「地方創生への処方箋」D・P・Eの活用」と題し、公益的施設の建設・運営・管理などを民間が代行するPFI(Private Finance Initiative)が地域経済に好循環を生んでいない現状を指摘し、地域活性化につなげるための提案をするものでした。彼らは、早くも次年度の決勝進出に向け、新たな意欲を燃やしています。

Faculty of Business Administration

経営学部

■学生が正しいインターネットの 利用法を小学生に指導

久保員也准教授、針尾大嗣准教授のゼミ生30人は昨年11月17日、門真市立四宮小学校の6年生約120人に対し、モラルやルールを守った正しいインターネットの利用法について授業を行いました。

久保ゼミと針尾ゼミは、今年度から大阪府警察本部生活安全部サイバー犯罪対策課と連携し、サイバー犯罪防止の啓発活動に取り組んでいます。

ゼミ生たちは、同課が実施する防犯講演等を見学し、指導内容を検討。練習を重ね、門真市教育委員会の協力を得て、同市内の生活指導を担当する同市立の小学校および中学校の教諭が集まる会議で、模擬授業を実施するなどの活動



半数以上の児童がSNSを利用したことがあると回答

行っていました。授業では3枚の写真を紹介して、どんな問題点があるのかを話し合いました。相手に許可なく写真をインターネットに投稿するとプライバシーの侵害に当たることなどを説明し、児童らに犯罪の被害者にも加害者にもならないようにと呼び掛けました。

「授業を実施するまで小学6年生がどこまで話の内容を理解してくれるかと心配だったが、SNSやインターネット環境について想像以上に詳しくかつた」と驚くゼミ生たち。同時に「小学生が元氣良く授業に参加してくれた。この取り組みを他校でも実施したい」と手ごたえを感じた様子でした。



熱心に話を聞く児童たち

都市環境工学科

■石田ゼミ・エコシビル部が
ワークシヨップで
準グランプリを受賞

昨年8月29日・30日に仙台で開催された「第8回いい川・いい川づくりワークシヨップ」で、都市環境工学科の石田ゼミとエコシビル部が寝屋川市内の各団体と連携し「チーム寝屋川」として出場し、昨年度に引き続いて準グランプリを受賞、また多くの仲間たちに共感と希望を与える活動に贈られる「森清和賞」も受賞しました。この大会は、いい川（＝個性豊かな愛着を持てる川）や水辺づくりを目指したものであり、エコシビル部の継続的な取り組みが大きく評価されたと言えます。



受賞後、北川法夫寝屋川市長を表敬訪問する学生と石田准教授

■大学内で実動型
災害研修を実施
建築防災研究室が協力

昨年8月31日と9月1日に実動型災害研修を実施し、教職員・学生合わせて延べ154人が参加しま

この「エコシビル」とは、「環境」を表す「eco＝エコ」と「市民、土木」を表す「civil＝シビル」を組み合わせた造語であり、淀川流域を主にした手漕ぎボートによる親水活動、河川清掃、外来生物駆除などの地域の水環境保全活動を定期的に行っています。1976年に土木工学研究部として発足し、1998年にエコシビル部に改名、現在では部員が80人を超える大きな課外活動団体となりました。主となる理系学生のみならず文系学生も参加するようになっており、環境への関心の高まりが感じられます。本学のISO14001の認証に関する環境活動にも、大きく貢献しています。

建築学科



救護所に搬送されたけが人の対応を行う救出救護班

した。訓練はキャンパス全体を使った大規模なもので、建築学科の建築防災研究の学生などの協力のもと、実動訓練ではララージュ（外傷模擬）を施したけが人の学生が救護所まで運ばれ、「実際の地震」さながらの訓練になりました。（訓練の様子は本学ホームページに掲載）<http://www.setsunan.ac.jp/news/detail.html?id=1563>

昨年11月25日には、訓練参加者に対し、石田英さん（建築学科4年）が事後アンケート結果を報告。



訓練の事後アンケート結果などを報告する石田さん

電気電子工学科

■技術士に関する講演会を
開催

電気電子工学科は、2014年

実動型訓練では、実際の地震同様、参加者は全体の被害等は把握できないので、ここでは全体の動きをアニメーションで説明しました。本研修は、建築学科の学生の卒業研究の一環として実施しています。訓練計画には、担当学生が学生目線で大事だと思うことをふんだんに盛り込みました。

に電気・通信システム総合コースがJABEE（日本技術者教育認定機構）の認定を受けました。これにより、本コースを卒業すると技術系最高位の国家資格である「技術士」の第一次試験が免除されます。しかしながら、技術士がどういう資格なのか、どういった業務に携わるのかは学生の皆さんはなかなか知る機会がありません。そこで、電気三学会（電気学会、電子情報通信学会、映像情報メディア学会）関西支部の協力のもと、日本技術士会近畿本部本部長の北村友博氏に「技術士の資格と業務」と題して昨年12月16日に講演をしていただきました。

当日は就職活動を控えた3年次生と、コース選択を控えた1年次生を中心に本学科の学生139人が参加し、熱心に講演を聞いていました。日本の技術士はまだまだ少なく、一方で幅広い分野で活躍が期待されているという話を聞き、将来を考えると非常に良い機会となりました。

薬学部

Faculty of Pharmaceutical Sciences

薬学部

看護学部

受賞者続出！

学会発表で頑張る学生たち

薬学部の人材養成に関する目標は「高い倫理観、心豊かな人間性、実践的能力を備え、わが国の医療の進化、健康・福祉の増進、生活環境の保全に貢献する薬剤師を養成すること」です。その目標を達成するには、自己研鑽に励み、授業・実習等における知識・技能・態度を高め、地域貢献等に努めることが必要不可欠です。

学会賞受賞者一覧

- 生体機能と創薬シンポジウム2015「優秀発表賞」受賞
杉野佑太さん(大学院薬学研究科4年)
- 第65回日本薬学会近畿支部大会「優秀ポスター賞」受賞
徳長愛加さん(学部6年) 血原英志さん(学部6年)
松村高志さん(学部6年) 福原明美さん(学部5年)
- 第9回日本薬局学会学術総会「ポスター優秀賞」受賞
西村裕平さん(学部6年)
- 第5回フッ素化学若手の会「優秀ポスター賞」受賞
篠原沙織さん(学部6年)

学会での研究発表において、薬学研究科および薬学部では昨年8月以降、上記の学生が学会賞を受賞しました。



アカデミック・サポート・センター2(1号館2階)

アカデミック・サポート・センターを

増設

枚方キャンパスに設置しているアカデミック・サポート・センターでは、これまでも学生同士のディスカッションやグループ学習が行われているほか、専門図書やパソコンを用いて個々の学習空間としても活用され、学習方法等の相談は教員が常駐し対応しています。利用する学生も多く、そのニーズに応えるため昨年10月にアカデミック・サポート・センター2を増設しました。

同室は、PBLなどで40人程度が学習する、あるいは1人で勉強できる空間を備えています。教員による少人数学生への補習などを行うスペースのほか、室内をロールカーテンで仕切ることが可能で、利用目的にあった空間作りが出来るスペースとなっております。さらに多くの利用者が期待されます。

看護学部・薬学部

合同学外実習のトライアル

現場におけるチーム医療を体験す

前期までに領域別の臨地実習を終えた看護学部4年次生は昨年9月7日から18日の2週間、これまで習得した看護実践を総括するとともに、患者さんに必要な看護を自ら考え提供できる能力を身につけることを目的とした「統合看護学実習」を行いました。

この実習は、学生自身が関心のある看護領域を選択し、当該領域に関係の深い学外施設で臨地実習を実施するもので、このうち、病棟で行う「基礎看護学」および訪問看護ステーションで行う「在宅看護学」の領域では、薬局での実務実習を終えた薬学部5年次生4人も参加しました。基礎看護学領域の実習では、看護学部生と薬学部生がペアになって患者さんを受け持ち、治療にどのような参加が必要かをそれぞれの視点で考え、実践方法を学びました。一方、在宅看護学領域の実習では、在宅医療の現状を把握した上で、服薬指導など薬に関する問題点を含めて抽出し、その解決策を討議しました。

看護学部生と薬学部生が臨床の場で共に実習することで、患者さんの治療においてお互いの視点を共有し討議する経験を通じて、将来、チーム医療を担える人材育成を目指しています。



薬剤師と看護師等職種間の連携・協働を学ぶ

看護学部

Faculty of Nursing

国家試験合格に向けて

全力で取り組んだ看護学部生

今年度初めて卒業生を輩出する看護学部では、4年次生が2月14日、看護師国家試験に全力で臨みました。現在は3月下旬の合格発表を待っています。

正課授業の講義や臨地実習を通じて身につけた看護学の知識や看護実践能力は、国家試験に必要な内容を包含していることはもちろんですが、本学部では正課授業以外にも国家試験対策として、3年次から模擬試験を実施するなど適宜対策を講じています。

4年次の夏以降は、月1回のペースで模擬試験を実施し、さらに外部講師による模擬試験の解説セミナーや集中講義、ゼミ指導教員による学生サポートなども併せて行い、万全の体制で支援しています。



情報教育支援

空席照会システムを導入しました

情報メディアセンターでは、自習利用等で大学の情報処理（演習）室および研修室を利用する際に、空席状況が照会できる「空席照会システム」を導入しています。本システムは研究室や自宅のパソコン、スマートフォンなどから利用することができます。システムのアクセス先はキャンパスごとに異なりますので、次のURLまたはQRコードからご利用ください。

空席照会システムの画面イメージ



寝屋川キャンパス

<http://www.setsunan.ac.jp/~center/open-n/>



枚方キャンパス

<http://www.setsunan.ac.jp/~center/open-h/>



情報セキュリティに関心をもちましょう

パソコンやスマートフォン等の情報通信機器は、私たちの生活の中で無くてはならない存在になってきています。これらの機器で提供されるサービスは日常生活を便利にする一方、さまざまなリスクも抱えています。報道等でも取り上げられていますが、ウイルス感染による情報漏洩やインターネットバンキングを狙った不正送金の被害などが年々増加しています。

「情報セキュリティ」と言われてもよく分からない「今まで何も被害を受けたことがないから大丈夫」とセキュリティ対策を行わずにいると、被害に巻き込まれる可能性が高くなります。一人ひとりが情報セキュリティに関心をもち、対策を取ることが大切です。

情報セキュリティの基礎知識や対策については左記のサイトを参考にしてください。

- 総務省
「国民のための情報セキュリティサイト」
http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/security/
- ここからセキュリティ！
情報セキュリティ・ポータルサイト
<http://www.ipa.go.jp/security/kokokara/>
- IPA 独立行政法人 情報処理推進機構
<https://www.ipa.go.jp/>

OS (Windows等) やソフトのアップデートをしていますか？

パソコンやスマートフォンにセキュリティソフトを入れていますか？



研究支援

大学発「知」の見本市 「イノベーション・ジャパン2015」に出展しました

昨年8月27日・28日、東京ビッグサイト（東京・有明）で「イノベーション・ジャパン2015」（主催：大学見本市&ビジネスマッチング）（主催：国立研究開発法人科学技術振興機構、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）が開催されました。本学からは、理工学部生命科学科 芳本忠特任教授および理工学部機械工学科 川野常夫教授の研究成果について、プレゼンテーションならびにブース展示を行いました。ブースには多くの企業関係者などが訪れ、展示内容について詳しく説明を行いました。



プレゼンテーションを行う
芳本教授

「ビジネス・エンカレッジ・フェア2015」に出展しました



展示ブースにて(片田准教授)

昨年12月3日・4日、大阪国際会議場（グランキューブ大阪）で、関西の大学や企業等による先進技術の展示会「ビジネス・エンカレッジフェア2015」（主催：池田泉州銀行）が開催されました。本学からは、理工学部電気電子工学科 片田喜章准教授の研究課題を展示するとともに、他の研究者の研究・技術シーズ集を持参し、来場者への説明を行いました。また、大学紹介のポスター展示も行いました。

2015年度 秋期教育懇談会を開催しました

後援会主催の秋期教育懇談会を昨年10月～12月にかけて、本学会場（寝屋川・枚方）、学外8会場（難波、奈良、鳥取、福岡、京都、広島、金沢、高松）で開催しました。ご多忙の中、全会場合わせて527組707名の保護者の皆さまにご参加いただきました。

教育懇談会は今後も継続して開催しますので、今年度ご参加いただけなかった方も、次年度はぜひご参加いただければと思います。ご参加いただいた保護者の皆さまから寄せられたご感想を紹介させていただきます。



難波会場 (薬学部 3年)

子どもが成長するにつれ、疎遠になりがちな親子の会話、また、学校と家庭の関わりをこの懇談会を通して少しでも解決し、改善できればと思い、参加させて頂いています。日頃知ることのできない学校での様子、中でも気になる成績に関する情報を頂けることはとても有り難いことです。

各学部、それぞれの担当の先生により用意して頂いている資料（成績表、授業の出席状況、またそれらに対する担任からのコメントなど）を基にお話をうかがえることは、とても参考になります。また大学への意見や要望なども直接聞いて頂けるので早期に対策し解決することができます。

京都会場 (薬学部 5年)

秋期の地方開催では、他年次の保護者の方々とお話させて頂く機会となり、薬学部ならではの4年次のOSCE試験・CBT試験や5年次に実施される病院・薬局での実習についてもいろいろと教えて頂きました。先生方のお話しとはまた違った子どもへの接し方や親のあり方を学ぶことができました。

また、他学部の先生方とのお話しの機会を得、違った視点からの薬剤師についての思いや今どきの学生についてもお話し頂き、大変参考になりました。

金沢会場 (経済学部 2年)

今回の個別懇談は、学長先生より直々に、大学の事や成績の事などをお話しして頂きました。就職相談では、息子がどうい職を望んでいるかまだ分からないのですが、摂南大学の就職事情や就職活動などの説明をして頂きました。来年は、具体的な相談が出来たらと思います。

また、入学式は大阪城ホールだったため、大学の中を見たことがないので、来年はぜひ摂南大学での教育懇談会に参加できればと思います。

奈良会場 (経営学部 4年)

大学との接点が少ない中、教育懇談会は大学と保護者との有意義な「交流の場」であると思います。個別懇談、自由懇談、就職相談と多彩であり、息子の年次ごとの目標に際し冷静に話を聞き、話すことができました。

日常指導いただいているゼミの先生と個別で話をして家庭では話すことの少ない息子の進級・大学での生活状況・就職に関する相談（業界選び、迅速な就職活動）・卒業を知ることができ、不安が無くなりました。就職活動では大学を取り巻く就職状況、就職活動に必要な事項等について、息子本人の就職状況を個別に相談して頂き、保護者としてどのような対処をすればいいのか、サポートをすればいいのかがよく理解できました。この様な懇談会を開催され、大学と保護者とのより一層深い「絆」が出来たと思います。

鳥取会場 (薬学部 2年)

昨年今春は大学で、秋は地元でと教育懇談会に参加しました。本人の選んだ大学、6年間も1人暮らしで本当に大丈夫なのかと心配していました。

懇談会では先生方から学校の取り組みや普段の様子を聞き温もりのある教育環境の中、学生1人1人の個性を大切にされた連携したネットワークに触れることで、6年間まかせても安心と思っております。

春は枚方キャンパスの保護者の方としかお話しすることができませんが、秋は地元で他学部の方も参加され、交流の機会になります。人との関わりを重視した、きめ細やかな指導により、親の気になることをしっかり見てもらっていることを嬉しく思います。これから自らの課題に向かってチャレンジしてほしいです。家族で応援しています。



こちらに掲載させていただいた以外にも、保護者の皆さまから多くのご感想をいただいております。

本学ホームページにも掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

摂南大学ホームページ
(<http://www.setsunan.ac.jp/>)

保護者の方へ

摂南大学後援会(教育懇談会)

教育懇談会

家計が急変し、学費の支払いに困った場合は

奨学金・教育ローン・学費減免・アルバイトのご案内

区 分	名 称	返済の要・不要
奨学金	①日本学生支援機構奨学金(JASSO)の緊急・応急採用	必要
	②貸与金額の増額(すでにJASSO奨学生の場合)	
	③地方公共団体・民間奨学団体の奨学金	団体により異なる
教育ローン	①国の教育ローン	必要
	②本学との提携ローン	
学費減免	学費減免制度(※給付制の学内奨学金を受給している者等、適用対象外となる場合があります)	不要

*申請にあたっては、申請書をはじめ収入に関する書類等が必要です。また、募集案内や説明会等、奨学金に関することは、ポータルサイトでお知らせします。ので、情報は見逃さないようにしてください。

不慮の事故や災害等により家計が急変し、学業継続に支障が生じた場合の経済支援策をご案内いたします。

▶ アルバイトのご案内

パソコンや携帯電話からいつでもどこでも安心な求人情報が入手できるサービスを提供していますので、有効に活用してください。

◎利用にあたっては、㈱ナジックへのアルバイト登録が必要です。登録希望の方は、本学のHP>学生生活>「学生マンション・アルバイトについて」から手続きしてください。

創立 40 周年記念事業



40年の歩みを
紹介した記念誌

摂南大学は、2015年4月に創立40周年を迎えました。

国連友好協会 ニューヨーク代表
池亀美枝子氏



懇親会の様子

第1部の記念講演会では、国連友好協会 ニューヨーク代表 池亀美枝子氏が「変動する世界情勢と国際貢献」をテーマに講演。自他国への理解を深め、自らの考えを発信できる人材育成の重要性について話されました。

第2部の懇親会では、久禮哲郎理事長とこの日をもって任期満了の今井光規学長があいさつ。来賓を代表し北川法夫寝屋川市長から祝辞、伏見隆枝方市長から乾杯の発声の後、歓談へと進みました。

2015
10/31
創立40周年記念
感謝の会



久禮理事長(右)、今井前学長(中央)、八木新学長(左)

最後に、八木紀一郎新学長がこれまでの今井学長のご功績を称えらるとともに謝辞を述べ、会は盛況のうちに閉会しました。

久禮理事長はあいさつの中で、学園創立100周年、摂南大学創立40周年の記念事業の二環として、寝屋川キャンパスに隣接する日本ペイント事業所用地の取得を報告。教育研究活動の充実と課外活動の活性化に向けた活用などの検討プランについて説明しました。今井学長からは、これまでの本学の発展を支えた多くの関係者に感謝の言葉がありました。歓談中は、摂南大学40年の歩みと今後のビジョンを示したDVDを披露し、参加者は新たなスタートを祝いました。

2015
12/15
特別講演会
「NO LIMIT ～限界を越えて～」



講演中、学生らに
「隣の人と互いの
目標や夢を語り
合って」と栗城氏



登山家の栗城史多氏を講師に迎えて特別講演会「NO LIMIT」～限界という壁を越えて～を開催しました。

この講演会は、学生の教養の幅を広げ、目標や夢に向かって一歩踏み出す力を養うことを目的に、10人の学生がスタッフとして運営しました。

栗城氏は、「冒険の共有」をテーマに山頂からのインターネット生中継に挑む異色の登山家。講演では、6大陸最高峰と8000m峰4座の登頂、4度目のエベレスト挑戦時に見舞われた9本の指を失う事故、そこからの復帰という

さまざま出来事の中で家族や先輩から掛けられた言葉やエピソードを紹介し、夢を持ちチャレンジを続けることの大切さについて語りました。

また、夢を言葉にして色々な人に伝えることが実現に近づく方法と話し、会場の学生を2人1組にして、お互いの目標や夢を語る時間も設けました。

登山を始めるきっかけとなった大学時代の失恋や、自分の限界を決めているのは自分自身だと気付いた大学山岳部での雪山縦走体験など、ユーモアもありつつ熱い思いが伝わる講演に、参加した約250人の学生は心を動かされた様子でした。



サイン入りのプレゼントを手に笑顔の学生運営委員

2015
10/6

外国語学部・地域連携センター
劇団ホワイト・ホース・シアター
英語劇「ドリーミング・イン・イングリッシュ」

演劇を通して英語教育の促進に尽力してきたホワイト・ホース・シアターによる英語劇「ドリーミング・イン・イングリッシュ」を上演しました。2回の公演を合わせて約300人の学生や教職員、市民の方が集まり、異国での思いがけない恋というお馴染みの物語を楽しみました。また観客は4人の俳優からの質問を受けたり、衣装を着てステージに招かれたりしたことで、劇の参加者にもなっていました。



舞台を囲むスタイルで観客席が配置され、俳優の熱演が間近に



タワーブリッジの被り物等面白い小道具に観客席から笑いが起きる

2015
10/8

理工学部
融合科学研究所設立記念講演会

昨年4月の融合科学研究所開設を記念して講演会を開催しました。同研究所は創立40周年記念事業の一環として、学部・学科の枠を越えた共同研究体制を構築し、特色ある研究を推進するため設置したもので、記念特別講演に池田雅夫大阪大学教授（ニア・リサーチ・マネージャー・前副学長）を招いたほか、理工学部教員による基調講演を行い、学生や教職員約250人が聴講しました。



「分野を超えて互いの常識をぶつけ合おう」と語り掛けた大阪大学の池田教授

池田教授は「融合が広げる柔軟な思考と可能性」と題した講演の中で、45年間の研究経験から得た「研究者の極意」を紹介。その後の基調講演では、研究所が採択した5つの研究について、生命科学科村田幸作教授、建築学科上谷宏二教授、都市環境工学科熊谷樹一郎教授、機械工学科辻野良二教授、同川野常夫教授が成果と今後の課題を発表し、専門分野以外の知見や技術について理解を深める有意義な機会となりました。

2016
1/13

法学部
講演会「テロと犯罪
～オウム事件を踏まえ～」



オウム真理教事件のテロ事犯性について語る神垣教授

東京地方検察庁の刑事部副部長時代に、オウム真理教事件の検察捜査を指揮した神垣清水客員教授を講師に、「テロと犯罪～オウム事件を踏まえ～」と題した講演会を開催しました。

理教事件」について、裁判所が判決を下す令状主義に基づいた平和的な司法手続で充分に対応できたのか、当時の被害状況や捜査に關与した国家機関、自身が知恵を絞り出し、あらゆる法令を適用して行った捜査方法などを紹介。近年、世界各地で相次ぐテロを軍事力で制圧する諸外国と日本を比較し、今後日本がテロに対してどのような視点で臨めばよいかを考えてほしいと、会場の学生たちに問い掛けました。

40周年記念 学生企画！
摂大エコ&スマート大作戦（エコスマ）

～学生が自ら課題を発見し、解決することを目標にして取り組みました～

エコシビル部を中心に、キャンパスクリーンサポーター（CCS）、その他の課外活動団体、近隣自治体、来場者の方とともに

準備は
一年前
から…

学生たちは「2014年度の大学祭期間中のごみの量を調査して、2015年度の大学祭で排出されるごみの量を削減する対策を練る」ことを学内外にポスターやホームページで宣言しました。

そして
2015
年度
摂大祭

エコシビル部の模擬店でたこ焼きとえび焼きを黄色のリユース食器で提供し、トレー廃棄物の削減に取り組みました。食器返却ブースでスタンプ台紙を発行。食器を1枚返却するとスタンプを1つ押し、スタンプを2つ集めると「1食無料券（エコシビル部の模擬店でのみ使用可）」になるという工夫を凝らしてリユース食器の利用促進に努めました。



結果は…

リユース食器の回収は**500枚!**
つまり、トレー500枚分の廃棄物を削減できたのです!
今後も廃棄物削減の対策を考え環境保全に努めます。
ご協力をお願いします。

今井光規 学長
「お世話になりました」
～学生有志が退任する学長に謝意～



たくさんの感謝の気持ちと温かい拍手に送られる今井学長

第9代学長 今井光規先生の退任にあたり
昨年10月29日、課外活動団体と学生の有志約
500人が第1グラウンドに駆けつけました。
卒業記念アルバムの撮影と、思いグラウンドに現れ
た今井先生を、吹奏楽部の演奏にのせた大学歌で
学生が迎えるというサプライズ企画。文化会本部
本部長 合田成亨さん(生命科学科2年)は「昼休
みにキャンパスを歩きながら学生に気さくに話しか
け、いつも温かく見守ってくださったこと、遠方の試
合や合宿にも足を運び応援してくださったこと、そ
んな優しい姿が自分たちの励みになっていた」と今

ラグビー部
(関西Aリーグ)
今季は3勝4敗で6位の健闘!



全力でプレーした部員たち

関西大学ラグビーAリーグが昨年12月5日に
全節終了し、本学は3勝4敗で6位と、全国大
学選手権大会に出場できる上位5チームには、あ
と歩届きませんでした。が、すべての試合で部員た
ちは全力を尽くし、熱戦を繰り広げました。この
悔しさを経験を糧に、さらに強いチームに成長し
て来季の全国大会出場を目指します。

井先生との思い出を振り返り、お礼の言葉を述べ
ました。今井先生は「皆さんの頑張り、摂南大学
がとて良い大学になっている。これからずっと応
援していきます」と学生たちにエールを送りました。
この日が大学での執務最終日だったことから、
多くの学生・教職員が花道を作って今井先生を
見送りました。集まった人々と握手を交わし、
ゆつくりと車に向かう今井先生。たくさんの拍手
に包まれて大学を後にされました。学生たちは
先生の言葉を胸に刻み、さらに学生生活を充実さ
せるよう思いを新たにしました。

「ソーシャル・イノベーション
副専攻課程」がスタートします

文・理に幅広い学びを展開する本学は、その利点を生かし
て学部・学科の垣根を超えた教育カリキュラムを編成し、
この4月、「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」をス
タートさせます。平成27年度「地(知)の拠点大学による
地方創生推進事業(COC+)」に選定された和歌山大学
の取り組み「わかやまの未来を切り拓く若者を育む「紀の
国大学」の構築」に参画するとともに「地域を舞台に、アク
ティブに学ぶ」人材の育成に力を注いでいきます。



「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」とは?▶



2年連続、見事優勝!



横山講師の世界一の
受け身を動画でご覧い
ただけます

3回・4回・6回選手権大会に続く4度目の世界一
を手にしました。

スポーツ振興センター
横山喬之 講師
「柔道の形」で4度目の世界一!

本学スポーツ振興セン
ターの横山講師が、昨年
9月19日・20日にオラン
ダのアムステルダムで開
催された第7回世界形
選手権大会(主催:国
際柔道連盟)に「投(な
げ)の形」日本代表選手
として出場し、見事優勝
しました。横山講師は第

摂南大学へのご寄付をお考えの方へ
<http://www.josho.ac.jp/bokin/>

摂南大学サポーターズ募金

Vision

「地域で学んだ知を世界に展開するとともに世界で学んだ知を地域に還元する」
ことが出来るグローバル人材を育成し、
持続可能な社会の実現に貢献できる総合大学を目指す。

Action Plan

豊かな人間性を醸成する
課外活動への
積極的参加の促進

「安全」「安心」「快適」に
修学できる
キャンパス環境の整備

幅広い分野・領域を持つ
総合大学の利点を生かした
教育・研究活動の推進

01

02

03

寝屋川キャンパスが拡大へ
隣接地を取得し校地面積が1.4倍に

寝屋川キャンパス(正門前)に隣接する日本ペイント寝屋
川事業所用地(37,746.47㎡)の取得が決まり(引渡時期
は2018年1月の予定)、寝屋川キャンパスの校地面積が
これまでより約40%増えることになりました。総合大学と
してよりバランスのとれた幅広い学びを提供するため、学
部・学科の再編をはじめとし、教育プログラムの充実や課
外活動の活性化に向けたサポートなどを進めます。

～ SETSUNAN GIRL'S PRESS PRODUCE ～

女子学生が 学生食堂新メニューを開発 4月発売開始

大学広報プロジェクト「SETSUNAN GIRL'S PRESS」のメンバー12人が“思わず写真を撮り、SNSなどで友達と共有したくなる”をテーマに新しいランチメニュー3種類を開発しました。



「鮭の
ムニエル定食」



「ハンバーガーセット」▲
◀「和風ポークソテーランチ」



寝屋川キャンパス
13号館2階 ブォナージョで
1月19日、新メニュー試食会を
開催。来場者も大満足の
様子でした。試食会でのアンケートをもとに、
メニューの選定、価格設定などの最終調整を行い、
4月から発売予定です。皆さま、お楽しみに!



2015年度 学位記授与式

日時：2016年3月24日(木) 11時～
場所：寝屋川キャンパス 総合体育館

2016年度 All 摂南大学 Dayを開催します

日時：2016年6月12日(日) 13時～【予定】 場所：京セラドーム大阪

プロ野球「オリックス・バファローズ 対 横浜DeNAベイスターズ」戦を、摂南Family(卒業生、在学生、受験生とご家族等)が集うホームカミングディ「All 摂南大学 Day」として開催。詳細は5月頃、本学ホームページでお知らせします。 球場ビジョンに本学の紹介映像が流れました(昨年の様子)▶



さ
や
け
き

「さやけき」とは

「清けき」と書き、明るい、清々しい、清く澄んでいるなどの意味を表します。大学歌に「学風さやけき摂南の」という詞があるのとおり、本学の明るく、若さあふれる清々しいイメージを象徴する言葉です。

表紙の人



〈左から〉宮嶋嵐気さん、川口雄大さん、
天野嵩大さん、西川恵里香さん

日本銀行主催の大学生を対象とした金融分野の小論文コンテスト「第11回日銀グランプリ」で、全国37大学計109組の応募の中から決勝進出の5チームに次ぐ佳作を受賞。日銀総裁からの表彰状が一人ずつに贈られました。

(詳細は本誌P.12で紹介しています)